

## 特集2

## アステリズム・ミーティング

## ～これからも多くの人たちと星空を見上

## げるために～

今西康平（日本天文教育普及研究会関東支部）

## 1. はじめに

近年、少子化や地方の過疎化に伴い、天文学に興味を持つ若い世代の減少や地域の天文団体の縮小が課題となっている。また、観測技術の高度化や専門知識の細分化により、新たに天文活動を始めたい人々にとってハードルが高く、必要なノウハウや仲間を得にくい状況がある。このままでは、各地で積み重ねられてきた貴重な天文活動の経験や星空を楽しむ文化が、次世代に十分に継承されないおそれがある。こうした危機感のもと、「多くの人たちと、これからも星空を見上げるために」をテーマに、2025年1月に全国の民間天文活動の活性化と継承のための構想として提案されたのが「アステリズム・ミーティング」である。

## 2. アステリズム・ミーティングとは

アステリズム・ミーティングは、世代や地域の枠を超えた天文愛好者たちのネットワークづくりを通じて、現在の天文活動を未来へ繋げることを提唱した構想である。その名称にある「アステリズム（星群）」とは、88星座とは別に自由な形で描かれる非公式な星の集まりのことであり、「人々が一つの枠にとらわれず、自由に結びつくことができるネットワークづくり」が重要であるという願いが込められている。具体的には、天文分野の全国的な交流基盤を構築し、現在の活動成果や知見を記録してアーカイブ化し、さらに複数の団体・個人が連携して新たなプロジェクトに

挑戦できる環境を整備するものである。アステリズム・ミーティングでは、この3つの柱となる指針を頭文字から取って「CAP」（Community／Archive／Project）と称し、それぞれコミュニティの創成、記録の保存・活用、新たなプロジェクトの推進を意味している。

## 2.1 Community

第1の柱であるコミュニティ（Community）では、全国の天文団体や愛好家がオンライン上で自由に情報交換・交流できるプラットフォームを構築する。これにより、地域や所属団体の壁を越えて知見やアイデアを共有でき、天文教育の現場にも大きな効果が期待できる。たとえば、各地の観望会や研究会の開催情報、教材開発の工夫などを迅速に共有することで、教員や指導者は他地域の知見を自らの活動に活かすことができるようになる。また、小規模な同好会や初心者であっても全国規模のコミュニティに参加することで孤立することなく先達から助言を得られ、新規参入のハードルを下げる役割も果たす。オンラインコミュニティによる継続的な交流は、メンバーの活動意欲を高め、各団体の運営の継続にも寄与する。こうした広域ネットワークの形成が、結果として国内の天文教育・普及活動全体の底上げにつながると期待される。

## 2.2 Archive

第2の柱であるアーカイブ（Archive）では、民間の天文活動に関する様々な記録資源を体系的に収集・保存し、誰もが参照できるデジタルアーカイブの構築を目指す。各地の天文団体が残してきた観測データや観望会の報告書、会報誌記事などは、天文教育において貴重な財産であるが、その多くは個々の団体内に留まり散逸の危機にある。そのため、全国的な枠組みで記録を長期保管し、キーワード検索等で容易にアクセスできる仕組みを整える必要がある。蓄積された記録は、次世代への知識継承に資するのはもちろん、現役の教員や天文指導者にとっても過去の事例やデータを学び、新たな活動に生かすための有用なリソースとなる。記録の共有化により、同様の取り組みを行う団体同士が互いの経験から学び合うことも可能になり、ひいては天文分野全体の知見の蓄積と発展に寄与することができる。

### 2.3 Project

第3の柱であるプロジェクト（Project）では、複数の団体や個人が共通の目標のもとに連携し、これまで単独では実現できなかった大規模な活動に取り組むための仕組みづくりを進める。2.1節のCommunityで構築するオンラインコミュニティ上には、テーマや目的ごとに参加者を募るプロジェクトチームの場が設けられ、円滑な情報共有と遠隔協働が可能となる。これにより、例えば全国各地の団体が知見や資源を持ち寄って同時多発的な観望イベントを開催したり、共同で観測プロジェクトを企画したりすることが可能になる。一つの団体では困難だった企画も、志を同じくする仲間と力を合わせることで実現への道が開かれる。こうしたアプローチは、参加者同士の連帯感を醸成し、新しい試みに挑戦する文化を育む点でも意義深い。複数の団体・愛好家間の協力体制が常態化すれば、天文教

育普及活動全体の実行力が強化されることが期待できる。

### 3. おわりに

アステリズム・ミーティングは、「CAP」（Community／Archive／Project）という三本柱を通じて、民間の天文活動に新たな活力と未来への道筋を与えようとする構想である。現在、オンライン交流コミュニティの試験運用や記録アーカイブ基盤の準備など、その実行に向けた検討が進められている。天文教育・普及に携わる我々にとって、互いの知恵と情熱を持ち寄り、「星空を見上げ続ける文化」を次世代に手渡していくことは、我々に課された重要な使命である。全国規模の連携によって生まれる新たな展開に期待しつつ、本構想への理解と協力を広く呼びかけていきたい。今後、アステリズム・ミーティングの理念が天文教育コミュニティの架け橋となり、より多くの人々に星空への扉を開いていくことを願っている。

今西 康平